(1)　第137号　（昭和25年10月6日 第三種郵便物認可）　磐城日日新聞　昭和26年(1951)1月21日（日曜日）

日刊
磐城日日

發行所
磐城日日新聞社
福島縣小名浜町港通51
電話 319番
振替口座仙台 31855番
編集人 高瀬讓
印刷兼發行人 長瀬芳郎

小名浜鐵工組合より 貸金の回收を督促

漁業家よりの未收千五百萬円

小名浜鐵工組合傘下電機自動車、内燃、製罐等の修理、製造業者二十六名は去る十七日臨時総会を開催、現下の鐵工品の値上り、金融逼迫、税金攻勢、資材購入資金の困難なる經濟狀態を打開するため漁業家に對する過去數年來の未收金（業者全般にて約一千五百萬圓）の支拂方を促進するよう在小名浜漁業各組合に對し督促する事を決定、昨二十日組合長に陳情書を提出した

各漁業組合では急きよ船主会を開き善處する模樣であるが鐵工業者等は舊正を控え企業の浮沈に關する重大問題であるだけに其の結末を期待している

小名濱局の地鎭祭

去る十九日午前十時より小名浜郵便局新築廳舍地鎭祭が同町中町境の工事現場にて、諏訪神社の小名川年雄社掌祭司となり三浦局長外水野町長、菅原町会議長、請負業者野口組代表等參列して嚴肅に執行された

大和田氏出馬確定

平市議戰に爆彈を放つ決意

日刊磐城毎日新聞社長大和田印刷所社長大和田與兵衛氏は、かねて鈴木市長派と噂されていただけに今春の市議戰に對する去就を注目されていた處いよいよ市政革新を標榜して出馬することを表明した、同氏は新聞人としての立場に於て鈴木市政の運營に對して常に關心を持ち自已の經營する報道機關を通じて、大膽卒直鋭い批判眼をもつて市政のあり方や功罪につき論陣を張り市民の覺醒につとめて來たが競輪、市營住宅、土木、印刷物等に至るまでどん欲な一部市議と高級市吏員が結托して情實と利權に沒頭し明朗なるべき市政に暗影を投じている現狀を默視することを許さず、決然として市政革新のため奮起することになつたとのことであるが、正義心に強く論壇の雄といわれる全氏が立候補した曉は平市議戰に爆彈を投ずるものとして今から各方面に期待されている

議員の横顔

平支局 梅野生

マルトモ陣營の總帥 "眞に徹す" 柴田徳二氏

來月に迫つた參議補選を皮切りに、市、町、村議、首長、縣議と矢繼ぎ早やに展開される選擧戰は文字通り一九五一年を選擧の春として、遂鹿戰の花を咲かせようとしているが、本社は玆にイワキの中心都市平の市會議員を悉く紙上に紹介し、その横顔をスケッチしてみよう

先づ一番議員柴田徳二氏の豪壯な邸宅に、朝の寒風を衝いて訪問する全氏は本年五十九才、議員としては油の乗り切つた再選議員である、午前九時朝食を終つたばかりの彼が、壁掛けの天体圖を背にして、靜かにお茶を呑んでいる姿からは、透徹した"眞"の世界に生る禪僧のやうな風格が感ぜられる、市是調査機關の設置を引つ提げて、苦闘四年の歳月が流れたが、未だ実現の運びに至らず目捷に改選期を迎え、一抹の寂寥がフッと彼の腦裡を去來する

「無駄な經費を省くために、事業の貫徹を期する爲に、」

と彼は言う、市長の交迭毎に變更しない"市是の確立"不動の市是こそは實に彼が平市發展によせる畢生の念願である

そうした彼の正しい基本線は、彼の經營する書房"マルトモ"の運營に端的に現われている、大正七年開店以來、孜々として三十五年、遂に今日の大を成したマルトモ陣營の總帥である彼は、男兒七名を各々重要ポストにすえ、自ら陣頭に指揮して、牢固たる今日の地盤を築いたが、まだ〳〵引退どころか、"マルトモ"チームの堂々たる主戰投手である、八人の子福長者、孫まで入れると十九人の大家族の首長である彼、近眼鏡をかけているが、どうして、近視眼的なところは寸分もない、酒を呑まず甘黨だが甘いところは、愛妻をいたわる言葉位なもので、事業面においては徹底的な科学精神を發動する、店舗を埋める二十万巻の書籍の匂いからでもエッセンスを吸收したのであろうか、第四部の常任委員會委員長として、商工面の振興に大きく一役買つてゐる點、蓋し適所適材の感が深い、とまれ彼に課された政治的使命は、寧ろ、今日及び今日以後において、眞に發輝されるものと期待してよかろう

【寫眞は柴田徳二氏】

生活科學

氣象の話（一）

小名浜測候所 箱崎幸平

高氣壓

地球上總べての生物は其の生存に對し絶對的氣候に左右されて居ることは我々の等しく知る處であります。

寒帶地方や熱帶地方に於ては生活し難く、もし生活するにしても多大の困難と、努力がつきまとつて來るわけです。

やはり温帶地方が一番理想的ですから我々の日常の生活は氣象に大いに支配されます。

屋外の場合などは尚更のことで一日或は二、三日前の天氣予報を知ることが必然的に必要となつて來ます。

其れでは皆さんおなじみの天氣予報はどの樣にして發表されるかと言うことについて順序を追つて筆をとることに致します讀者諸氏の常識として又弟妹教育の一資料となる處がありましたら筆者の幸いとするところであります。さて予備知識として高氣壓に就て述べてみましよう。

或る地域の氣壓が周圍の氣壓と比較して高ければ高氣壓といい高氣壓中の一番氣壓の高い處を、高氣壓の中心、其の示度を高氣壓の中心示度と云つて普通ミリバールで現わして居ります。

風は地球自轉の影響により北半球では右廻り南半球では左廻りに廻りながら吹き出します

それ故高キ壓圏內では下降氣流とおり一般に天氣は良いのであります。

次に高キ壓の種類について述べてみませう、

I、寒冷高氣壓、冬季大陸が冷却するとそれに接觸した下層の空氣は冷氣團となり大陸一帶にわたつて高キ壓を形成します

（續く）

星一氏急逝

錦町出身、參議院議員星一氏は十八日午後六時米國ロスアンゼルス市に於て急逝した、全氏は元星製藥株式会社社長としても有名で「日本哲學」其他の著書がある

建物敷地買收

関係者間で協議

小名浜町舊日立工場建物及敷地買收委員會は二十日午前十時より町役場町長室に於いて木村、金澤佐藤(貞)、山野邊の各委員、佐藤日立出張所長、長瀬助役、馬上土木課長らが參集して、舊日立工場の敷地二万三千坪の買收について協議した

郡連合青年

産業振興大會

郡連合青年会産業部では廿一日午前十時から市公会堂日本間に於いて磐城青年産業振興大会を開く新日本建設の主軸をなすものは産業振興であるという目的のもとに鑛、商工、農漁業、家庭等あらめる部門で一人一題（十五分間）を發表するが第一部は農林水産業に關するもので第一分科技術、第二分科經營其の他、第二部は商、工、鑛業に關するもので第一分科技術、第二分科經營其の他となつており審査員には平商工會議所伊藤事務局長外知名の士數名があたることになつている

街の聲

町會雜觀

昨日の町会雜觀は少しは効き目があつたらしいそこで續町議列傳のかわり續町会雜觀とゆかう…

小名浜町議の中に居寢りを本業(チト云い過ぎか)としているように見受けられる御仁がある、春夏秋冬時をきらわずであるから呆れてものが云えない、その恰好たるや机に兩の肘をつき手のヒラを左右上向に開き徐ろにお顏（大した御面相でもないが）をのせ、口はだゝ漏く横一文字、ノートルダムのせむし男の口そつくりだあれでヨダレでも流しておれば牛と間違えられるが幸いそこまではいかぬので牛ではないらしい、五十路を越した御年躰でれつきとした旦那樣の身上でありながら何をすき好んで今時船方に轉向するのか、[illegible]の練習とは一寸ゲセない幾ら町民の代表だからとて居眠りまで町民はお願いはしない筈だ

最も當日の町会に出席するため配布された議案を一晩中一睡にも及ばず検討を重ねて時の過ぎるのを忘れた結果とあらば町民は涙を流して感謝するであらうが、そこまでの眞劍さがあるや否や甚だ疑問である

この男（失禮、議員さま）惡い癖と云えば語弊があるが、議案も長時間に亘り審議しつくされ、いざ裁決と云う段階になると「關連性があるから一寸」とばかり發言をもとめる何を云うのかと思うと賛成なのか反對するのか自分も人も知りつくした愚にもつかぬ駄辯をならべ得意然としている、他の議員さまは又始まつたなあと云うような顏付きでソッポを向いている、御本人それを知らないのか余程ボンボッコが惡いとみえる、郡山（腦病院）でも行かずばなるまい苟も政治を語る人であれば瓢簞鯰のような態度は止め眞面目に確たる信念をもつて町會に望むのが本分だ、とうした議員を評してナマズ議員と稱す

明日の暦 二十二日（日）

日出	前	六時四十一分
日入	後	四時四十七分
滿潮	前	五時三十分
	後	二時〇〇分
干潮	前	九時三〇分
	後	十時〇〇分
月齢		一三・三
通日		二二

モノサシ
マス
ハカリ
体温計
寒暖計
小名浜町
資生堂
電147番

新築移轉廣告
小名浜町横町に長い間お世話になつて居りましたがこの度左記場所に新築移轉いたしましたので今後共よろしく御願い申上げます
尚從來通り出前も迅速に致しますから電話を御利用下さい
小乃せ食堂
小名濱町辨天横町通り
電五七八番呼（ならや）

21日—22日
戀と唄！松竹超大作！
絢爛の大音樂ドラマ！
「平凡」連載小說の映畫化！
男女青年生活の讀本！
女性三重奏
日本映畫界一流スター總出演
日本歌謡界一流歌手總出演
近日上映
ソ連映画『奴レイ海岸』
◎この映畫は日本ならハヤブサヒデトの活劇と同じです
金星座

20日—22日
人妻の巻
眞珠夫人 後篇
淫婦か？毒婦か？
誤つた第一歩に滿ち足りぬ夜毎を悶える處女未亡人！
▽キャスト△
高峯三枝子　澤村貞子
池部良（I・A・C）
春日俊次　羽鳥敏子
星美千子
二本柳寛　山本禮三郎
磐城座

子供の名付にこまる

戸籍法にも苦情が多い

廿三年一月に改正された戸籍法によれば出生届の名前は常用漢字を用いることになっているが、平市戸籍係の最近の調査統計をみると常用漢字が少ないため同姓同名がグンと増え、また子の名前だけは「憲法の保障する基本的人權の人格權で表現の自由を侵害するのは違憲だ」という聲もあり六月に開く縣戸籍事務連合協議會まで子の名に使う漢字の増加對策を進めることになった、子の名に使う漢字については昨年十月開かれた全國連合戸籍事務協議會で「弘、宏、伊、杉、鶴、藤、也」など必要とされる卅四字の増加を決議し内閣に意見書を提出しているが、市の戸籍窓口をのぞくと廿二、廿四、廿五年と一年おきに同姓同名が急カーブに上昇、最近では「これではこまると逆に改名屆をするものが目立つて多くなつている、との例を平市でみると鈴木、佐藤、齊藤、高橋という姓が壓倒的に多いところに婦人では裕子、麗子、惠利子、男子では隆、憲一憲次、憲司、という同姓同名がある、これと反對に同姓同名では社會生活上支障あるとの理由で改名屆をだしている者は廿三年六件廿四年七件廿五年二件となり、また一部ではこれでは表現の自由を侵害するものと強い反對の聲もあるので縣連合協議會でもこの問題を大きくとりあげるのではないかと市ではいつている

求刑十二年（江名の殺人犯）

江名署の調書で訴因變更

一昨年九月十三日午后七時三十分頃平和の港町江名町、中之作、須賀一番地の路上に突如として起つた血なまぐさい殺人事件は當時一般町民をして不安と興奮のるつぼにたゝき込んだ事件だけに加害者に對する判決が注目されてゐたところ被告長谷川哲英（二八）に對し去る十七日平地裁支部で松本檢事から徴役十二年の求刑があつた

本事件はかつて各新聞紙上を賑わした通り中之作神社下船主高橋源太郎氏長男漁夫高橋健一（當時二〇）君を長谷川がアイクチで刺し殺したもので檢擧から送檢まで僅か三時間の短時間に手際よくやつてのけたスピード記録もので江名警察署長鈴木氏は例の遠慮勝ちな口元を幾分ほころばせ乍ら次の樣に語つた

本事件は判斷、操作、檢擧、調書の作製、送檢まで實にスムースに進行された事件で江名署としては調書の素因から確信を以て殺人罪として送檢したのに對して檢事は之を傷害致死罪として起訴、一年有半經たる今日、やうやく去る九日檢事側も江名署で送檢した通り殺意の認定顯著となり殺人罪として訴因の變更をし、公判に付せられた事は調書の自然性が買われたものといつてよい

合格者發表

湯本消防部員

湯本町常備消防部員の採用試驗は既報の通りであるが十九日採用者を發表し個人に通告した、合格者次の通り

三函一九五　沼知　弘文
榮町八一　比佐　大
寶海六三　佐藤　留吉
三函二七〇　赤川　繁雄
上川八　三部　房一
三函一八九　石川・正男

尙部員は二十日から一晝夜交替として勤務につく事になつている

身上相談を

睦會が開始

平市内在住の未亡人達によつて結成されている睦会ではさきに市役所廳舎内に賣店を設け好評を買つている矢先今度は同賣店内に市内一般未亡人達の〝身上相談〟を毎週月曜日午后から行うことになり期待されている、相談相手となるのは会長の金成キミさんと福祉司の大平年さんで会員以外のものでも相談に来て下さいと張きつている

確證擧らず

磐崎美人殺し

常磐炭礦磐崎坑炊事婦殺し事件は連日数班の捜査を續けているが未だ物的證據になるものが發見されない現場は晝なお暗く谷間には熊笹がおいしげり晝でも無氣味な所だけに堅坑通勤者以外にはほとんど通行していない彼女の死因はマフラーによるちつ息死であり、現場の狀況から察して抵抗しての外傷がなく時計、オーバあるいは現金がない所から見ると地元不良連中のいたずらではないかとの見方も強いようである

共德丸にゾク

小名浜町竹町一三六柳内無人方漁夫佐藤辰治（四二）氏は去る五日より十九日まで福島市に旅行中第十八共德丸に置いた合羽、雨外套等衣類七點（約四千圓相當）を盗まれ小名濱保安部へ屆出た

印刷物は
長瀬印刷所

今日の天氣

【今日】北西の風稍強くよい天氣ですが、日中一時薄雲が擴がりましょう北部山沿では雪時雨がありましょう

【海上】季節風により風波が高くなりますから漁船は御注意下さい

魚菜市況 20日

【小名浜中央青果市場】

さつま	二〇―四〇圓
人參	五五―七〇〃
ねぎ	三〇―四〇〃
牛蒡	九〇―二〇一〃
ほーれん草	五六―八二〃
長大根	一五―二五〃
里芋	六〇―六二〃
丸大根	二〇―二五〃
馬鈴薯	三〇―五〇〃
へらな	一四―二〇〃
油な	五二〃
にら一把	一一〃

【魚市場】

たこ	三三〇円
平目	六五〇〃
虫	二〇〇―三計〇〃
もち	一九〇〃
水たこ	三五―八〇〃
さんま	三三〃
（水揚三四〇〇貫）	
はも	二一〇

小說　雲遙かなり　⑭

伊納川　銀

女心は　二

耳を澄まして遠ざかり行く兄の足音を聞いていた。ザクッザクッと玉砂利をふむ、特徴のあるリズムが段々小さくなつていく。自分のと同じリズムだ。秀平は薄れゆく優治の足音の、最後のひびきさえも聞き洩らすまいとするように、じつと身じろぎもせず耳を澄ませた。肉身への斷ち切れぬ愛情。自分の死期をはつきり知つているが故に、毎日のように來ている兄にさえ、別れの惜しまれる昨日今日であつた。

いつ頃から來た習慣か道を通る人の足音に耳を澄ますことが秀平の日毎夜每の日課になつていた近づく足音に胸をとどろかし、遠ざかる足音に失望の眼を閉じる。秀平には待つている一つの足音があつた。昨日も一昨日もいや生まれる前から待つていたようにも思われる足音。万人の足音の中にあつても、絶對に聞き誤まる事のない足音、それを毎日毎日待つている秀平だつた

「今日も來ない。」

そうつぶやいて秀平は目を閉じた。自分に言い聞かせるように、

「それでいいんだ。それでいいんだ。」

と呟いた。うつすら瞼に涙が滲んだ。

「富枝。しやわせになつてくれよ。僕はお前の笑つている姿を描きながら死んで行くからね。」

秀平はそつと電氣カバーに目をやつた。こわいものを見るように。それには富枝の切ない愛情がはかり切れない深さでともつているような氣がしてならないのだつた。今でも愛していてくれるのだ。あんなすげない別れ方をして。家を出て行く時の富枝の目、憎しみと悲しみの交錯した絶望的な光を秀平は忘れる事ができなかつた。そうする事が富枝の幸福だと信じていた。今でもそう思つている。だが、別れた次の瞬間からのこの寂しさは一体どうした事か。母よりも兄よりも自分の求めていたのは富枝であつたのだつた。自分の心のありかをはつきり知つた時、やはり秀平はこらえねばならなかつた。だからこそ尙富枝とは離れねばならないのだと。

夢に幾度富枝と逢つた事だろう。すつかり快くなつた彼が、富枝と手を組みながら、廣い砂浜をどこまでも歩むのであるサクッサクッと砂にめりこむ二人の足音まではつきり聞えるではないか。砂浜の果てに、白亜の燈台が、日をやわらかくはじき返して紺碧の空と海にくつきり浮き出している。それは希望の象徴だつた。松の風も、浪のひびきも二人の幸福のためにあるようだつた。

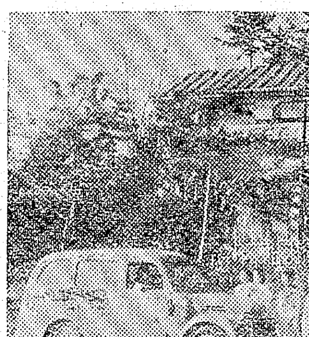
いつかはそうなるのだ快くなつたら、どんなにしてでも、富枝に歸つてもらつて二人の幸福をきずくのだ。それ迄の我慢だ。と自分に言い聞かせてこらえて來た秀平だつた。けれどももはやそれもかなわぬ望となつてしまつた。二度と富枝と共に味う幸福はない。

「富枝。僕はひとりで死ぬんだよ。」

口に出して言つて見た。涙腺がゆるんで、ぼうつとあたりがかすんでくる彼は唇をかみしめた。

強くて丈夫で
經濟的な
ゴム靴・ゴム合羽
タヌキ印代理店小島ゴム店
小名浜町本町六二　電340

募集
文撰・植字・機械工
希望者来談
長瀬印刷所



新年會は小瀧で!!
お電話ですぐお迎えに参ります
御旅館　小瀧　福島縣小名浜港
電話103番

急募!!
印刷見習工員　男女を問わず　二十歳以下（住込可）
…履歴書を要す…
株式会社　ナガセ印刷所
小名濱町渚廻り五一　電二二九

江戸前
すし
小料理
金寿
小名浜駅前
電一二八

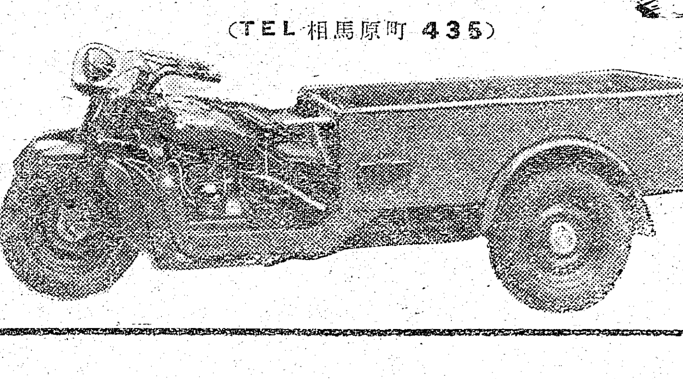
くろがね

自轉車補助機關
パンキー號（二二〇CC）

代理店
くろがね号
メグロ号
パンキー号の御用は
各車純正部分品販賣及修理
有限會社　壽商會
社長　秋元旦吉
小名浜町本町三二
（電話三〇九番）
勿來町驛前
（電話一四六番）

特約店
くろがね号
メグロ号
パンキー号の御用命は
各車一貫整備工場
植木モーター商會
代表者　植木博
小名浜町仲町境一八
（電話二六八番）

福島縣
茨城縣　總販賣代理店
株式會社福島くろがね商會
茨城くろがね株式會社
（TEL相馬原町435）

メグロ號（五〇〇CC―二五〇CC）
オートバイ・サイドカー